

脚本「マツチ売りの少女」

脚本・原作 大久保 舞
おおくぼ まい

カクヨム作品より応募
オリジナル脚本

放送後音声公開可
放送後脚本公開可

二〇一八年一月三十日

登場人物

佐藤（佐）

高校に通う頃から同じコンビニで働き続け、高校卒業後、そのままコンビニの正社員になった。オーナーのことを一途に思っている。

オーナー（オ）

佐藤が働くコンビニのオーナー。オーナーだが、まだ若い。たまに毒舌だが、心優しい性格。年下の妻がいる。

慷慨・あらすじ・プロット

文字数 ●三千文字

所要時間 ●十一分

マッチ売りの少女

原作・脚本 大久保 舞

脚色 大久保 舞

イメージイラスト 巳年キリン

登場人物

佐藤

高校時代からコンビニで働き続け、卒業後、そのまま正社員になった。オーナーに想いを寄せている。

オーナー

佐藤が働くコンビニのオーナー。オーナーだがまだ若い。たまに毒舌だが心優しい性格。年下の妻がいる。

佐藤 N

女性なら誰でもおとぎ話の主人公に憧れることが一度くらいあるだろう。

これは、マッチ売りの少女のように火の中の空想へ憧れてしまったとある女性の物語。

休憩

SE ライター着火

佐藤 M

「今日もこのライターをつけると、まだ見ぬこれからが火の中に浮かぶ。」

私は待ってる。今日もまた。いや、今日こそは。

そう思いながら、今日何本目か分からない煙草に火を灯す。

元々私はヘビースモーカーではなかった。そればかりか、つい数ヶ月前まで煙草なんて吸ったこともなかった。私がこんなにも煙草を吸うようになったのは、空に煙が昇る間だけ、幸せが降りてきてくれるから」

SE 《扉開く音》
オーナー

「お、佐藤。お前最近休憩になると必ず喫煙スペースにいるな」

佐藤

「そうですね。休憩時間はだいたいここですね」

オーナー

「すっかりヘビースモーカーだな。

ま、俺も吸いたいのをずっと我慢して仕事してたんだけどな。じゃ、俺も至福の一品……

あれ？……って悪い。

ライター鞆ん中に入れっぱなしだ。佐藤ちよっと火かしてくれるか」

佐藤

「最近よく忘れますね。 はい。どうぞ」

オーナー

「サンキュ」

SE ライター着火

オーナー

「……って佐藤 火、見すぎ。」

…どした？ なんかあったのか？」

「いえ…。ちよつと思ひ出が…」

「なんだそれ？」

「ん…コンビニでアルバイト始めた頃、今みたい
にオーナーはよくそうやって美味しそうに煙草吸
ってたなあって」

3.

回想 《じゃれあい》

「その頃私、まだ高校生で、あの頃の悩みと言っ
たら…。

アルバイトなかなか決まらなくて。今だから言い
ますが…ここも駄目元でうけてましたから」

「ああ確かに。なんかやさぐれてたもんなあ（笑）
お前とにかく必死で、それが空回りしてたから。
でも俺、お前の頑張り屋なところ、素直に凄いと
思うよ。よし、よしよししてやろう」

「…やめてくださいよ…」

「あ、やっぱよしよしは無しだな。入りたての頃、
お前、レジの中身を全部ぶちまけるドジやったも
んな」

佐藤

「!?それ忘れてくれるって言ってくれてましたよね!早く忘れてくださいよ」

オーナー

「シフトの皆が、これで仕事終わりだ!喜んでいたのにガッシャーンてな」

佐藤

「その節は大変申し訳ございませんでした。レジ点検で中身を全部ぶちまけて誤差出ちゃったのは私のせいです」

オーナー

「皆の冷たい視線が突き刺さってたなあ」

佐藤

「本当に。あの日寒かったし凍えるかと思いましたが。でもオーナーはすぐバックヤードから出てきて、文句言いながらも一緒に片付けてくれましたよね。皆は先にあげらせてあげて」

オーナー

「まあね」

佐藤

「オーナーたまに優しいんですよね」

オーナー

「たまにじゃねーよ。いつもだろ。」

「いまだってほら、心配。」

「お前もう次の煙草だろ。」

「吸うペース早いつて」

4.

二本目の煙草

SE ライター着火

佐藤

「別にいいじゃないですか。って何火じーつと見
つめてるんですか」

オーナー

「さっきのお前の真似」

SE ライター閉じる

佐藤

「なんかやなかんじつ ふう〜」

オーナー

「なんかさまになっちゃって」

佐藤

「そりやそうですよ。もう未成年じゃないですし、
正社員二年目ですからね」

オーナー

「そうだったな。もうだいぶ経つのにまだしつこ
りきてないや。お前、あの頃進路に凄く迷ってた
よな。だから、うちで正社員になるかって俺か
ら訊いたんだ」

佐藤

「驚きました。就職活動も難航してて、まさかバ
イトから正社員になれるだなんて、夢にも思っ
ていなかったの。反射的に『私で良かったら、ぜ
ひよろしくお願いします』って言っちゃいました
よね」

オーナー

「そしたらお前、

俺の返した言葉に泣き出したんだよなー(笑)」

佐藤

「そんなことありましたっけ？」

忘れちゃいましたよ」

オーナー
「なんだ忘れちゃったのか、ならもっかい言うてやる。」

『私で良かったら、じゃなくて、お前だからだよ。お前は俺の厳しい指導にも耐えて、一人前になってくれたな。俺はずっと見ていたから。良く頑張ったな』」

佐藤
「・・・」

オーナー
「ん？おこった？すねちゃった？」

5.

煙草二本目

佐藤
「……もう一本吸う」

SE ライター着火
オーナー
「おいおい、本当に吸うペースが早いな」

佐藤
「だって…
このライターで吸うと美味しいんですもん」

SE ライター閉じる
オーナー
「おお。あげた甲斐があるな。大事にしてくれよ」

佐藤

「はい…」

オーナー

「今日はえらい素直だな」

佐藤

「いや…だってこれ…せっかくなくれた成人式のプレゼント。私、成人式にもでてないし、誰からもお祝いされてなかったんで、本当に嬉しかったです」

オーナー

「いや〜そういつてもらえると。探したかいがあるわ。マジで。このライターはビンテージでな。デッドストックなんてそうそう手に入らない。しかも俺とお揃いで、同じ場所に存在するなんて事は滅多に…」

佐藤

「その話何回目ですか」

オーナー

「それに…俺のライターも実は貰い物でさ。」

奥さんからの」

佐藤

「……」

オーナー

「俺が、欲しいライターがあるけど全然手に入らないって言うてたら…どこからか探し出して、プレゼントしてくれたんだ。俺めっちゃうれしくて、その時初めてうれし泣きしちゃったよ。なのに嫌

味でき、替わりに本数減らせて…。なんだよ
って思っちゃったよ」

佐藤

「そうだったんですか…」

オーナー

「って。俺この一本って思ってたのに結構長居し
ちまったな…。」

佐藤

「もう一本…吸ったらどうですか？」

オーナー

「いや、ちょうど煙草も切れたし。それにこの一
本、吸い納めって思ってたんだ」

佐藤

「えっ？」

オーナー

「もう禁煙するんだ。ずっとしなきゃしなきゃで
先延ばしにしてきたんだけど。」

新しい家族がき。増えるんだよ。

俺ももうすぐ父親だ」

佐藤

「……………」

オーナー

「でもなんだか良かったよ。最後の一本、お前と吸
えて。っしや！今日から禁煙。今から禁煙！お前
も吸いすぎには注意しろよ！あつでもライターは
大事にしてな♡…じゃ！俺戻るわ！」

佐藤

「…はい」

S E 《扉開閉》

佐藤 M

「私はこれで最後にしよう」と心に決め、新しい煙草を一本啜えた。

オーナーからもらったライターに火が灯るのも、これが最後となるだろう」

S E ライター着火

佐藤 M

「涙越しの炎に、あるはずもないオーナーとのこれからが見えた気がした」

S E ライター閉じる

佐藤役 三好 麻美

オーナー役 十河 圭祐

原作・脚本 大久保 舞

脚色 K L M

イメージイラスト 巳年キリン

選曲・効果 十河 圭祐